

1月全校集会

3年生が自由登校となり、1・2年生だけの全校集会となりました。少し寂しい気持ちもしますが、2年生は最高学年になるという自覚、1年生は学校の中核になるという自覚を持ち、高校生として、また明高生として恥ずかしくない言動がとれているかどうか、今一度自己点検してほしいと思います。

ところで、皆さんはニュートンのリンゴの話を知っていると思います。ニュートンが庭先で休んでいたとき、リンゴが木から落ちるのを見て万有引力を発見したという話です。ニュートンは天才であると言われますが、単にリンゴが木から落ちるのを見て万有引力の発見につながったわけではありません。彼は当時、太陽の周りを回る地球に働く力や、地球の周りを回る月に働く力の解明に没頭していました。そして、来る日も来る日もその原因や理由を考えていました。それがあったからこそ、偶然リンゴが木から落ちるのを見て、万有引力に思い至ったわけです。つまり、ニュートンは日々問題意識を持っていたからこそ、万有引力を発見することができたのです。

もう一つ、自動車の生産工程におけるベルトコンベア方式についてです。これを発案したのは、アメリカの自動車王、ヘンリー・フォードです。彼は自分の会社が業績不振に陥り、それを立て直すために、生産効率を上げる方法はないものかと、来る日も来る日も思案していました。そんなある日、肉屋の前を通りかかった時、1頭の牛が天井から逆さまに吊り下げられ、3人の職人が頭・背中・足の肉をそれぞれ手分けしてそいでいる光景を見ました。その瞬間、これを自動車の生産工程に取り入れてはどうかとひらめいたのです。これも、ヘンリー・フォードが日々問題意識を持っていたからこそ、ベルトコンベア方式を発案することができたのです。

このように、すばらしい考えやアイデアは自然と思いつくものではなく、日々問題意識を持って考え続ける中から突如ひらめきとなって現れるのです。このような気持ちの持ち方を、英語で「プリペアード・マインド」と言います。

これを皆さんの学校生活に当てはめて考えてみてください。皆さんが今、「知りたい」「できるようになりたい」「解決したい」と思っていることは何ですか。たとえば、学習面では

どうしたら英単語を効率よく覚えられるのか。

どうしたら古文や漢文が好きになれるのか。

どうしたら三角関数が分かるようになるのか。

どうしたら絵を上手く描けるのか。

部活動では

どうしたら上手くなれるのか。

どうしたら精神的にも強くなれるのか。

どうしたらレギュラーになれるのか。

どうしたら勝てるようになるのか。

日々問題意識を持ち続けていれば、先生の話、友達との会話、新聞記事やニュース、ひょっとしたら登下校の際に見かける風景の中にも「なりたい自分になれる」ヒントがあるかもしれません。何も考えず、受け身の姿勢でただ漫然と生活していたのでは、何の気づきも、何の変化も、何の進歩もありません。ぜひ、何事にも主体的に問題意識を持ってほしいと思います。

フランスの生化学者パスツールは、「チャンスは準備した人にものみ与えられる」と言っています。

アメリカの発明家エジソンは「天才は1%のひらめきと99%の努力」と言っています。

いずれも、今日の話と通じるものがあるように思います。

今日は皆さんに、ワンステップ上の自覚ある言動を取ることを、主体的に問題意識を持って学校生活を送ること、この2点を伝え、今後の皆さんの成長を期待して全校集会の挨拶とします。